



凹版印刷切手に時折見られるものですが、切手を印刷すると彫りの弱い線など図案の一部が薄くなったりする不都合が生じることがあり、それを修正するために版に施す手直しをリタッチと呼んでいます。



図①は、きじ航空 59 円切手に見られるリタッチの例で、右上部の上から 5 本目の横線が約 3 ミリ太くなっています。かつて『フィラテリスト』第 11 巻 5 号に発表したもので、一部シートのも 6 番切手です。



図②は、同じ切手の別のリタッチの例で右上隅で二本の線が太くなり一本は湾曲しているのがわかります。ポジションは今の

ところ不明です。きじ航空切手では他の額面にもリタッチが存在していて収集、研究すると面白い対象なのですが、シートが 50 面で目にする機会もなかなかないため、ポジションの確定には時間がかかりそうです。

(記：藤岡 靖朝〈日本郵楽会会員〉)